

Future

Sports Festival ~共に作り上げた4年生~

22日（土）に第2回のSports Festivalを開催しました。たくさんの保護者の方、ご家族に参加いただきありがとうございました。今回のSports Festivalを開催する中でたくさんのことを考えていました。

①開始前やSOLAN自由競技での雰囲気

8時の開門から少しずつ登校してくる子どもたち、そしてお越しくださる保護者の皆様の雰囲気が、私は非常に大好きでした。運動会を開催する中で、大きな心配の一つが保護者の方による観覧席の場所取りです。朝早くから並び、開門と同時に席を取るために走り出し、場所に着いたら大きく場所を取ろうとシートや持ち物で席を取る...多くの学校で見られる状況ですが、4学年となったSOLANのSports Festivalでは全く見られず、保護者の方同士が談笑しておられました。私も4年生の保護者の方が集まっておられるのが見えたため、話しかけに行きたくなり限られた時間ではありましたが、楽しい時間を過ごさせていただきました。このアットホームな雰囲気でスタートするのが、SOLANの良さの一つだなあと感じました。

このアットホームな雰囲気は、SOLAN自由競技でも同じように感じていました。普段多くの保護者の方々がサポートくださっている探究学習同様、今回もたくさんの保護者の方がSOLAN自由競技をサポートくださいました。本当にありがとうございました。21競技同時開催という聞いたことのない形式を作るため、保護者の皆様のサポートは本当に大きな力となりました。また他学年児童やミライノハコ、来年度入学予定の園児、また在籍児童の兄弟姉妹と色んな子が参加する中で、どの子にも声をかけてくださっていました。ご自身のお子さんと同っておられる保護者の皆さんにもたくさん笑顔が見られ、素晴らしい雰囲気で始まったSports Festivalでした。

②共にSports Festivalを作り上げた4年生の頑張り

今回のSports Festivalでは、4年生全員が放送、もしくは用具係として運営側に回りました。通常こういった行事に関わるのは、委員会が始まる5年生からで、4年生が関わることはあまりありません。そんな中27人の子どもたちが運営に関わったことで、とても大きな力となりました。

放送では11名の子どもたちが参加し、それぞれが日本語か英語で放送をしました。台本を配布し、役割を決めた翌日には「練習し本当にやりたいという気持ちがあるかどうか」の審査をしました。その段階では完璧を求めるのではなく、やりたいと手を挙げ任されたことに対する「責任」を果たすために努力できるかどうかを見ていました。その審査には、英語の難しい発音や、習っていない漢字、4年生では使ったことのない表現などに負けることなく、見事全員が合格し、本番を迎えました。当日は何百人もの人の前で放送するという独特で計り知れない緊張感のある中、それぞれが頑張っていたと思います。練習通りの力が発揮できなかった子もいましたが、今年はやりきったことに大きな意味を感じています。

用具係では、玉入れなどの競技のサポートをしてくれました。本部、放送、救護、会場運営に加え、学年の児童に付き添う教員もいると、競技間の片付けと準備をスムーズに進めることはかなり難しいことです。彼ら彼女たちがいたからこそ、間伸びすることなく各競技を進めることができました。それは本番当日だけでなく、平日に行った2回のリハーサルでも発揮されたことです。3時間目にリハーサルを行った後、教員がそれぞれ4時間目の授業に向かってしまうため、後片付けができるには数人の教員です。後片付けができなければ、昼休みに子どもたちがグラウンドに出てきた時に用具が出っ放しになってしまいます。そこで片付けを行なってくれた用具係の子どもたちのサポートは本当に助かりました。自然と先生たちから「本当にありがとうございます！助かった！」と声をかけられるのも、いい経験だったと思います。

4年生には、今後もずっとSOLANの最高学年として私たちとともに学校を作り上げていく同志として頑張ってもらいたいと考えています。